

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・片山・大西<sup>b</sup>・平林・大塚<sup>c</sup>・吉田(ひ)<sup>c</sup>、吉田(亨)<sup>c</sup>、鈴木<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 核データの科研費は不採択であった。(加藤)
- VBL の COE に吉田(亨) が着任した。(加藤)
- 4/1 より核反応データ研究開発センターが発足した。(加藤)
  - 原子力機構と連携大学院の協定が結ばれた。(加藤)
  - 理研と研究協力協定が結ばれた。(加藤)
- 5/29 7/1 に VBL の外国人招聘で、イタリアより Ciofi 氏が来日予定である。(加藤)
- 原子力人材育成プログラムにアプライした。(加藤)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 1-2 回)。詳細は別資料参照。(大塚)

3: 議論

- 核反応データベース研究開発センターの英文名をどのようにするか? (継続)  
案 (括弧内の数字は投票数)
  1. Nuclear reaction data center (3)
  2. Japan center for particle reaction data (1)
  3. Japan nuclear reaction data center (2)
  4. Japan center for nuclear reaction data (0)
- 今年度の予定 (承認)
  1. NRDF-新規論文の採録 30 編を行う。
  2. NTX-WG -作業としては年次報告書の作成を当面の中心とする。
- NRDF 年次報告の発行スケジュールについて。(承認)
  - 5 月 18 日 : 原稿締め切り
  - 5 月 31 日 : レフェリーなど
  - 6 月 8 日 : 印刷開始
  - 6 月 18 日 : 製本開始
- センター発足の挨拶を助言委員に行う。(承認)
- 新規コードについては仮登録制度を採用してはどうか? (承認)
  - 1 年の仮登録期間を設け、期間が終わった後に検討を行う。
- 核データセンターにおける元素生成に関する評価活動について (承認)

- 昨年度の NRDF/A の成果
  - ◇ 中性子、捕獲反応について、断面積を実験データ (EXFOR)、評価済みライブラリより採録を行った。
  - ◇ 書誌情報についてのデータベースを作成した。
- 今年の作業としてはまず、宇宙の西村氏が作成した軽い核の主要な核反応率の一覧表との比較を行い、足りない反応について補完作業を行う。
- 新規コード (承認)
  - PS-CNTR (V 型 5 類) : Position sensitive counter
  - THTC-1 (H 型) : Scattering angle theta of emitted particle 1 in c.m. system
  - THTC-2 (H 型) : Scattering angle theta of emitted particle 2 in c.m. system
  - PB.(NO3)2 (V 型 8.3 類) : PbNO3
  - CA.CO3 (V 型 8.3 類) : CaCO3
  - BA.CO3 (V 型 8.3 類) : BaCO3
  - SN.O2 (V 型 8.3 類) : SnO2
  - RU.O2 (V 型 8.3 類) : RuO2
  - MO.O3 (V 型 8.3 類) : MoO3
- 新規コード (以下を仮コード (フラグを立て、1 年間様子を見る) として辞書に登録する。(承認)
  - (DELTA-)AZZ (H 型) : Error in Tensor analyzing power A(zz)  
(Z はビームの進行方向の定義とする。)  $A_{XX}+A_{YY}+A_{ZZ}=0$  の関係式があるため、通常  $A_{XX}$ ,  $A_{YY}$  は使われるが、 $A_{ZZ}$  は使われない。今回の論文 (D2042) では、上記の式が正しく成り立っているかを調べるために測定されたものであり、汎用性があるコードではない。
  - INC-ENGY-LAB-MAX (H 型) : Maximum incident energy in lab. system
- 新規コード (以下は継続)
  - XSECTN-MIN (H 型) : Cross section (lower limit)

#### 4: 次回

2007 年 5 月 28 日 18:30~

## 荷電粒子核反応データファイル管理運営委員会

### 2007 年度第 2 回議事録

2007 年 5 月 28 日 18:30~

---

#### 1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・片山・千葉・大西<sup>b</sup>・平林・大塚<sup>c</sup>・吉田 (ひ)<sup>c</sup>、吉田 (亨)<sup>c</sup>、伊藤<sup>c</sup>、鈴木<sup>c,d</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

#### 2: 報告

- 連携大学院の客員教授が片倉氏と柴田氏に決定した。(加藤)
- 5/21 にブラッセル自由大学の Arnould 氏と核データ評価活動の協力について議論を行い、今後協力していくことを確認した。(加藤)
- 年報の原稿がそろってきたのでレフリーに回す。(平林)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 3 回)。詳細は別資料参照。(鈴木)
- Ciofi 氏の滞在が 6/30 までと変更になった。(吉田)

#### 3: 議論

- デジタイズの数値化において、これまで x, y 軸の 2 軸から数値化をしているが、上下の x 軸、左右の y 軸の 4 軸からメッシュ補間で数値化することを提案する (伊藤) (承認)
- 技術文書の INDC レポートを必要に応じて発行してはどうか?
  1. IAEA より各センターに配布され、引用がされやすくなるので、発行することにメリットがある。
  2. Annual report の別刷りという位置づけとし、必要に応じて発行をおこなう。
  3. 昨年度の Gsys 2.2 のマニュアルを候補とし、その発行について検討する。

#### 4: 次回

2007 年 6 月 25 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・千葉・平林<sup>b</sup>・大塚<sup>c</sup>・吉田(亨)<sup>c</sup>、鈴木<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 宇宙理学専攻が OMEG07 を 12 月 4-6 日に開催することとなった。(加藤)
- IAEA のテクニカルミーティングの参加要請が来た。(加藤)  
千葉、大塚が参加することを返事した。
- 核データを XML を用いて再定義することを考えている。(千葉)
- 年次報告についてはレフェリーチェックが終わり、明日印刷を開始する。(鈴木、平林)
- 辞書ワーキンググループ報告(第 3-8 回)。詳細は別資料参照。(大塚)

3: 議論

- 仮コードの取り扱いについて  
新たなフラグ "P" (provisional) を作成し、仮コードを FLAG=P で明示するようにする。
- 超重元素のコード化について(2年前の9月の委員会で部会に差し戻された議論について)  
ntx-wg より提案のあった 278UUT を採用する。  
(候補としては、1) 278X (+コメント)、2) X (+コメント)、3) 278UUT (+コメント) が挙げられていた。)
- RCNP で測定された (p,n)、(p,p') の微分断面積の数値データについて  
原研の遮蔽グループからの依頼により、理研の天津秀暁氏に RCNP で測定された (p,n) と (p,p') の微分断面積の数値データを探して頂いた。  
データは学位論文になっているが、未出版であり、現在投稿の準備が進められている。  
以前に private communication 扱いとした D2031 と同様、
  - EXFOR にのみ採録し、NRDF には採録しない。
  - 出版された時点で NRDF に採録する。という扱いを行う。
- 共鳴エネルギーの採録について  
入射エネルギーが、実験室系で与えられている場合は RESN-ENGY を使わずに INC-ENGY-LAB を用いる。(エネルギーが重心系で与えられている場合は INC-ENGY-CM もし

くは RESN-ENGY を用いる。)

- 新規コード

INC-ENGY-CM-MIN/-MAX (H 型)	: Incident energy in c.m. system (lower/upper limit)
UB/(MEV/C) (V 型 14 類)	: ub/(MeV/c)
ETA (V 型 13 類)	: eta
UB/(GEV/C) (V 型 14 類)	: ub/(GeV/c)
(DELTA-)DSIGMA/DP (H 型)	: (Error in )dsigma/dp
2JPNAKT (V 型 1 類)	: Akita Univ., Akita
H2O (V 型 8.3 類)	: H2O

- 修正コード

COS を含む以下のコードの展開形に angle を追加する。

COS-LAB-MIN/-MAX (H 型), COS-CM-MIN/-MAX (H 型), COS (W, F 型),  
SQ-COS-LAB (H 型), SQ-COS-CM (H 型), SQ-COS (H 型), COS-LAB (H 型),  
COS-CM (H 型), COS-LAB-MIN/-MAX (F 型)

(例: Cosine in lab system を Cosine of angle in lab system に)

- 大塚が新しい NRDF 作図システム、NRDF/EXFOR/ENDF/NRDF 検索システムのデモを行った。

#### 4: 次回

2007 年 10 月 1 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・千葉・平林・大西<sup>b</sup>・浅野<sup>c</sup>、吉田(亨)<sup>c,d</sup>、吉田(ひ)<sup>c</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 浅野氏が VBL 研究員に着任。
- 大塚氏が IAEA 核データ部門に着任予定。
- 鈴木氏が医工連携プロジェクトに異動、後任として山田氏が着任。
- 神戸大惑星科学専攻と北大宇宙理学専攻で GCOE の申請を計画中。
- 来年度の核反応データセンター概算要求を作成中。アジアの核データの教育拠点としての展開を長期的な視点で位置づけることを考えている。(以上、加藤)
- NRDC テクニカルミーティングに出席。(千葉)

3: 議論

- 数値 0.003(0)などの表示での誤差 0.000 の扱い。  
0.0005 とする案と、  
0.000 のまま、有効数値に関するコメントを入れるという案、  
0.0005 として、コメントを入れるという案。  
(継続)
- 同じエネルギーにおける複数回測定した断面積の値について  
数値は平均操作などせずにそのまま扱い、コメントを入れることとする。  
(承認)
- 数値読み取りでの対称誤差について  
数値読み取りの際、対称誤差と非対称誤差の区別を付けにくい時がある。  
NRDF は非対称で  
EXFOR に送るときは対称にする。(エラーバーの大きいほうに合わせる。)  
(承認)
- 採録年間計画  
必ずしも、すべてをレフェリーする必要がないのではないか。  
コーディング、チェック作業に慣れてきたら、必要に応じてレフェリーするという  
のはどうか。ただし、コーディング者が慣れるまでは必ずレフェリーを行うように  
する。

- 新規修正コード（次回へ）

4: 次回

2008年2月25日 18:00~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・千葉・大西<sup>b</sup>・浅野<sup>c</sup>、吉田(ひ)<sup>c</sup>、吉田(亨)<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 概算要求書を事務の協力を得て作成中。
- VBL の運営委員会において、VBL 非常勤研究員として吉田、浅野の継続と古立氏、CHEN 氏の着任が承認された。また、PLOSZAJCZAK 氏の招聘 7~8 月が承認された。  
(以上、加藤)
- 採録関連: 前回送信時からの作業分 125 編を EXFOR へ 1 月 31 日付で送信した。
- DUNAEVA 氏により 2007 年度未採録論文リストが公表された。jcprg 未採録論文 3 編について大塚氏が回答した。
- 対称、非対称誤差を出力するときに NRDF 独自の入力データを作るかどうかの検討をする。
- 大塚氏からの引継ぎの分担、マスター変更、ファイル送信、Web 更新、新規論文の分担表への追加などについて検討していく。
- 椿原、菊池、松宮が今年度入力したデータについてデータファイルのチェックを行う予定。(以上 吉田ひ)
- (D0828 於)  $E_{in}+Q(x,y)$  のような全エネルギーを横軸とするデータの扱いについて。ただし、 $E_{in}$  は入射中性子エネルギー、放出中性子陽子の多重度は  $x,y$ 、 $Q$  は反応の  $Q$  値。横軸のエネルギーの代わりに多重度  $x$  をデータとして採録することにした。

3: 議論

- 浅野の提案に対して「Errata、comment、reply などの付加的な論文に載っているデータについては、著者の要請があれば、独立した論文としてではなく secondary reference として採録することができる」こととした。(承認。)
- MIN/MAX と LB/UB は別コードで扱う。(承認。)
- 数値 0.003(0)などの表示での誤差 0.000 の扱い。  
0.000 のまま、有効数値に関するコメントを入れるという案に決定。(承認。)
- 有効数値が統一されていない場合。  
著者から送られてきたデータは著者の承諾を経てコーディング者が有効数字を揃える。(承認。)
- エラーバーがプロット点に隠れて見えない時のデータの数値読み取りに関して。

エラーとして推定される最大のサイズである、プロット点の半径で代用し、コメントを付ける。(承認。)

- 新規修正コード

ARS-DET に変えて ANGLRS を登録し ANGLRS-DET を用いる。(承認。)

4: 次回予定

2008 年 3 月 31 日 18:00~